

校長だより

兵庫県立伊川谷高等学校

May23th, 2022

1 学年コミュニケーション類型の「コミュニケーション基礎」の取組 ★出会いによって心が動く体験を

○5月17日(火) 6限「コミュニケーション基礎」の授業は、外部講師として JICA 関西大阪デスクより、トラン ティ 美香氏をお招きして、ワークショップを行いました。

○SDGS を切り口にした内容でしたが、特に美香氏が海外青年協力隊の一員として派遣された中米コスタリカでの支援のお話が興味深く、とても考えさせられる内容でした。

○美香氏は、NHK ディレクターであった経験を生かし、コスタリカの学校に通う 10 代の生徒たちにスマホで動画を撮影し、作品に仕上げる課題を課し、それを指導するといった活動をされました。

○生徒が制作した作品のうち、母親を主人公としたものを観賞しました。貧困、家庭崩壊、ドラッグなどの厳しい境遇におかれたコスタリカの若者たちが、その境遇を恨むことなく、またそれに飲み込まれることなく、夢に向かって生きていこうとする姿に心が動かされました。本校生徒も、現地の同世代の若者の姿に触れ、色々なことを感じてくれたようです。

○生徒の感想の一部を紹介します。

・「勉強をもっとしていきたい。勉強を今できていることが当たり前と思わずにしていきたい。」

・「コスタリカの人は同じ年齢とは思えないほど大人だと思った。私もこんな風に考えたい。」

※なお、この日の授業の様子については、コミュニケーション類型新聞に詳しく紹介していただいています。是非こちらもご覧ください。



□5月20日(金) 午後に本校教員を対象に第1回心のサポート研修会を行いました。

○今回の研修会のテーマは、「ヤングケアラー」でした。スクールカウンセラーの長尾直子先生に指導助言をお願いしました。

○研修会では、教員が4グループに分かれ、家事や幼い弟の世話することを余儀なくされた2人の高校生の事例について、支援できることやその中で配慮しないといけない点などについて話し合いました。各グループからの発表ののち、長尾先生より、指導助言をいただきました。

○助言いただいた内容をご紹介します。

・生徒がもし「ヤングケアラー」であったとしたら、という視点で見ると、風紀上問題のある生徒の振る舞いの理由が理解できる場合がある。

・対話することは大切だが、それで当人を理解できたことにはならない。また解決してやろうなどと思ってアプローチしないこと。

・介護される親にもプライドがある。当該生徒にとって親の介護は、大切な時間でもある。

・「つらいね」、「かわいそうだね」、「何かあったら言ってね」といった言葉がけが、生徒を傷つける場合がある。「わかってくれた」「話をきいてくれた」と、生徒が思うことが大切。

※研修を実施していただいた先生方に感謝申し上げます。



★5月26日(木)に1年生徒にタブレットを配付します。

5月26日(木) 6限目をLHRの時間とし、会議室にてタブレットと付属品などを1年生徒に配付します。スムーズな配付、今後の運用にご協力をお願いします。

※タブレットの購入、配付にあたり、事務室の方々にも多くの業務を担っていただいています。ありがとうございます。